

大麦の越冬後の 追肥と管理

長岡農業普及指導センター
麦作情報No. 2

代表電話 0258-38-2554
E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

今冬は少雪のため、すでに消雪しているほ場が多くなっております。生育量は、は種時期、排水条件等によりほ場間差が見られます。今後の降雪や降雨による停滞水を速やかに排出できるよう、早めに排水対策の点検・整備を行いましょ

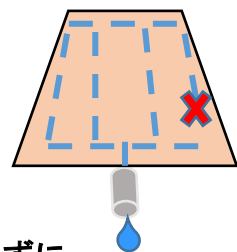
今後の作業のポイント

- 1 早急に排水路の点検・整備
- 2 消雪直後追肥は必ず実施（めやす：3月上旬頃）
- 3 雑草対策・病害防除の徹底

1 排水対策 — 再度排水の確認を！

- 暗きょ栓は開いているか？
- 明きょの水は排水口に流れているか？

点検・整備を行う



2 越冬後追肥 — 3回追肥が基本。消雪後の麦の生育は速いので、遅れずに。

(1) **消雪直後追肥** ▶ (越冬で消耗した麦の回復) 排水経路の点検後に施用

- 施肥目安：10a 当たり 標準施肥量 窒素・カリ 各3kg
- 時期：日平均気温が4～5℃になると追肥の効果が現れる。
(めやす：3月上旬頃)

(2) **茎立期追肥** ▶ (穂数の増加に効果大) 生育量・葉色を確認してから施用

- 時期：茎立期 ▶ 全主茎の40～50%の稈長が2cmになった時期
※ 消雪が3月20日以降となった場合は行わない。
- 施肥目安：(10a 当たり窒素施用量) 生育量、葉色に合わせて施用する。

m ² 当たり 茎数	葉色 (SPAD)	窒素追肥量
600本未満	42未満	2kg
	42以上	1～2kg
600本以上	42未満	1～2kg
	42以上	(施用しない)

追肥量は、
止葉抽出期追肥が
できる程度にとど
める。

(3) **止葉抽出期追肥** ▶ 1穂粒数と千粒重の増加を左右するので**必ず施用する!**

○時期 : 止葉抽出期▶ 全茎の40~50%の止葉が出始めた時期

(出穂10~15日前頃)

○施肥目安 : (10a当たり窒素施用量) 生育量、葉色に合わせて施用する。

m ² 当たり茎数	葉色 (SPAD)	窒素追肥量
500本未満	45未満	2kg
	45以上	1~2kg
500本以上	45未満	1~2kg
	45以上	1kg未満

3 雑草対策

- 雑草が多いと養分競合により減収する。
- イネ科雑草は麦角病の伝染源となる。
- 地表水を排除したら、発生状況に応じて生育期処理除草剤を使用する。

4 病害防除

(1) **赤かび病** ---- **必ず防除する!**

○赤カビ病菌は、赤かび毒素を生成することがあり、人・畜が毒素を大量に摂取すると嘔吐、下痢等の症状が発生するため、以下の対策・対応をお願いします。

○2回の薬剤防除を行う。

1回目:開花始めから開花期(出穂期の4~7日後頃)

2回目:1回目の7~10日後

○適期刈取りを徹底する。

○するため、収穫前に発病状況を調査し、発生している場合は発生のないほ場とは別に収穫・乾燥・調製を行う。共乾施設では荷受け時に赤かび粒の有無を必ずチェックする。

※0.04%以上の被害粒混入があれば、別に乾燥・調製を行う(10,000粒に5粒以上で規格外)。

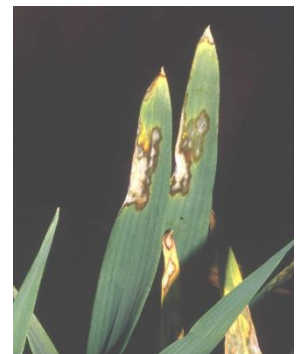
症状等:穂の病斑部に淡紅色のカビを生ずる。出穂~乳熟期に雨が多く、高温年に多発する。

(2) **大麦雲形病**

○発病が確認されたほ場は、茎立期~出穂期に薬剤防除を行う。

症状等:葉や葉鞘に葉いもちに似た紡錘形の病斑を生じる。積雪下でも感染・発病・蔓延する。

【雲形病の病斑】



(3) **麦角病**

○耕種的防除のみ:連作しない。イネ科雑草の防除等を徹底する。

○収穫前に周辺のイネ科雑草の穂も含めて発病状況を調査する。

発病が認められた場合は、赤かび病と同様に対応する(10,000粒に5粒以上で規格外)。

症状等:感染した穂に蜜滴が形成され、暗褐色で角状の塊を突出する麦角が生ずる。